

アプリ コーライフ

住まいのOSとなる「iecon（イエコン）」を展開し、暮らしの困りごとを解決する小修繕や、設備の備品販売など幅広いサービスを展開するコーライフ（東京都中央区）。新築やリフォームでかかわったオーナーとつながるHUB的なサービスになることから、現在、400社以上の住宅事業者が導入している。具体的なサービス概要と今後の展開について代表取締役社長兼CEOの池内順平氏に話を聞いた。

居住者の困りごとをプラットフォームで解決

総合的に暮らしの困りごとを解決するサービスを展開しています。そして、6年前に、住まいにおけるOS、いわゆるWindowsにあたるipaaS（クラウド総合プラットフォーム）事業の「イエコン」を開始しました。サービスを構築するためのベースには居住者のお困りごとがあります。小さな工事をどこに頼めば良いかが分からないとか、火災保険の証券や設備の説明書が

どこにいったか不明といった点をデジタル化しようと考えました。各種の困りごとは自社で解決するのと、パートナーシップ提携で解決するのと、



▶小修繕や、設備の備品販売など幅広いサービスを展開する「iecon（イエコン）」

住まいのOS、400社が導入 暮らしの困りごとを総合解決

小修繕や設備の備品販売を全国対応

2通りで展開しています。具体的には設備保証や住宅備品の販売、リフォームなどです。

400社が解約率1%で寄せる 全幅の信頼

——どういった事業者がサービスを利用しているのですか。

現在、大手デベロッパの4割ほどに当社のプラットフォームを活用してもらっており、全体では400社を超える事業者者に、昨年1年間で約5万棟のユーザーにご利用いただいています。6年展開してきて、解約率は1%を切っており、しっかりと利用される仕組みをつくることに成功しました。正直、皆さん費用をかけて住まい関連のアプリを作っても、あまり使われずにいるパターンが大半です。時代とともにサービスは変わりますし、ユーザーインタフェースも非常に重要な領域ですので、ソフトウェア開発の専業会社として細かいところを地道に手直してきて今に至っています。

——ユーザーが日々使うような中身になっているわけですね。



池内順平社長



▲リフォームでかかわったオーナーの幅広い悩みを解決可能

が可能で。

——中長期では、どういったメニューを増やしていく予定でしょうか。

これから確実にニーズが増えるものとして、火災保険のデジタル化があります。損害保険会社と連携してオールデジタル化する仕組みを開発しています。また、自動ドア

AIを活用した「できる人が動く」仕組みを

——最後に、今後実現したい未来はどのように描いていますか。

住宅のChatGPTを作りたいですね。AIで差配をし、連動して人が動く。質問に回答して

くれて工事まで完了する、というのが全自動化していきます。国ごとに住環境を取り巻く事情は違いますが、社会課題や暮らしの不便の解消は世界共通だと思うんですね。現状では、AIは質問への回答をしてくれても、品質のコントロールまではできません。AI2.0は、サービス側の人の動きまで連動させることだと思えますし、絶対に人が必要なのは、きちんと対応できる人が完了まで持つていく。そんなことに取り組んでいます。

会社概要

会社名：コーライフ
代表者名：池内順平
本社所在地：東京都中央区
創業年：2015年
事業内容：e-コマース、プラットフォーム構築、住宅メンテナンス、住宅設備サポート事業など

センサーで多くのシェアを持つ企業と連携して、世界初のスマートエントランスという、スマートフォンに入れたアプリで起動しなくてもドアに近づいただけで自動で開く仕組みも開発中です。

今のセンサーと同額で最新のIoT型に変えるだけで導入できるの

で、かなり好評です。こちらも、われわれのサービスの基盤にしていきたい